

地域福祉ネットワーク会議における課題の取り組み状況

【新居地区住民自治協議会】

平成 30 年度は地域福祉ネットワーク会議を 2 回実施し、区長と福祉担当副区長、民生委員児童委員らで情報交換を行った。一人暮らしの高齢者等への見守りや、情報・連絡体制について情報交換や協議をした。訪問時に出てこず、中で倒れているかもしれない事案のことや、安心シートや緊急連絡カード、福祉票、緊急通報装置などの情報共有をした。また、新居地区として人材養成講座「ご近所支え合い講座」(全 4 回)を実施した。住民の関心は高く、毎回 60 名程の参加があった。

東高倉区では、平成 30 年 4 月から地域会議として、「ひとみ会(「ひ」がし高倉を「と」もに「み」まもる)」を実施している。参加者は新旧の民生委員とサロンのボランティア。区の三役と顔合わせ会も実施し、1 月からは毎回三役が参加するようになった。来年度は見守り支援員との顔合わせ会を企画中で、見守り支援員の活動への参加を検討している。また、西高倉区では、きずな会が軽度生活支援に取り組んでいる。

【柘植地域まちづくり協議会】

柘植地域では、「つげふくしネット」として地域福祉ネットワーク会議を開催している。平成 30 年度は 2 回開催し、1 回目は先進地の視察研修として滋賀県米原市の大野木長寿村まちづくり会社への視察を行った。大野木区同様、柘植地域でも区単位の取り組み(見守り隊)を進めており、こども食堂や移送サービス、高齢者ビジネスなど大野木区の活動は今後の柘植地域の活動につながる視察研修となった。

2 回目の会議では、各区単位での地域会議(見守り隊)の設置状況、活動状況などの活動報告を行った。平成 30 年度にすべての地区で地域会議を設置予定であったが、3 月現在、12 地区中 4 地区で地域会議が設置されている。平成 31 年度も引き続きすべての地区で地域会議が設置できるようにすすめていくとのこと。主な地区単位の取り組みとしては、下町区では地域会議設置に向けた住民アンケートを実施。区単位で見守りや支援のしくみが必要であると回答された世帯が 7 割となり、住民が何らかの取り組みをしていく必要があると感じている結果となった。中柘植区ではすでに生活支援サービスを展開しているが、平成 30 年度より生活支援サービスとして外出付き添いサービスに取り組んでいる。

柘植地域では区単位の課題解決に向けてすべての地区で地域会議の設置、さらには生活支援サービスの実施、見守りのしくみの構築、自主防災の取り組みをすすめている。

【矢持住民自治協議会】

矢持地区の各集落では、日常生活やサロン活動の中で、気になったことや気がかりな人について話し合う地域会議を開催されており、支援が必要と思われる住民の情報などを共有している。

地域ケアネットワーク会議では、その地域会議で話し合われた見守り活動や地域課題についての報告、情報共有を行っている。そして地域包括支援センターの保健師や社会福祉法人のケアマネジャー、市社協の地域福祉コーディネーター等の専門職が参加しており、地域の課題に対してアドバイスをしたり、そこで解決が難しいことは後日訪問する等の対応を行っている。

最近では、サロン同士の交流会も行われており、各サロンの長所を学び合うようになってきている。地域会議での話し合いから認知症高齢者の対応を検討するなど、主体的に住民が動き出している集落もあり、見守り体制が強化されていく良い循環が出てきている。